

## 今月の表紙



### 草場 一壽さんの陶彩画 「飛翔」

前月号に引き続き、陶彩画で世界的な評価を得ている草場一壽さんの作品を掲載させていただきました。

草場さんご本人による解説をいただきましたのでご紹介します。

「古今東西命の霊鳥として、朱雀、鳳凰、火の鳥、不死鳥、フェニックスなどいろいろな呼び名はありますが、不死の生命のように燃え盛る炎の中から新生した飛翔する。そのエネルギーを表現しました。」

※現在公開中の映画「ストロベリーナイト」(出演:竹内結子、西島秀俊ほか)の劇中で、草場さんが虹色の龍を描いた作品「平安」が登場します。ぜひご覧ください。



### 金澤 翔子さんの書

2月2日に武雄市文化会館で行われた社会福祉大会にゲストとしてお越しいただいた金澤翔子さん。

当日は、書道パフォーマンスとして、ご自身がお気に入りの言葉の一つ「飛翔」を大筆で力強く書き上げていただきました。

ダウン症を抱えて産まれた翔子さんは、5歳から母の書家・金澤泰子さんに師事し、書家として天賦の才能が開花。現在27歳で、大河ドラマ「平清盛」の題字を手がけるなど、最も注目される書家のお一人です。

大会では「ダウン症の子と共に生きて」と題してご講演いただいた母の泰子さんは「きれいに書こう、はみ出さないように書こうという計算や打算が全くない。伸びやかで力強い線は彼女にしか出せません」と言います。

純粋に書の世界に向き合い、独自の「美」を生み出し続ける稀代の書家の渾身の作品をお楽しみください。

## 編集前記

### 自分も見たい市報を

このところ、他の自治体などから「広報武雄」についてお問い合わせをいただくことが増えてきました。

その時よく訊かれるのが、

「批判や反対はありませんか?」

「他の部署や関係者をどうやって説得したのですか?」

……ということ。

ズバリ極論すれば、私たちは「自分も見たい市報」を目指しています。

自分たちも市民や読者の立場になって、これなら面白いと納得し、理解しやすく楽しいものになりたい。

つまり、サービスを「受ける側」の論理が最優先だと考えているわけです。

「これまでそうだったから」

「たとえ見にくくても、情報は全部詰め込んでおけば後で問題が起きない」

「用語や制度の名前なのだから、分かりにくくてもそのまま載せなければ」

……というような、サービスの「提供側だけ」の都合や論理はどんどん見直します。

たしかに、サービスを受ける側に立って考えるのは実に難しい。独りよがりにならず、市民や読者のみなさんのニーズを的確につかむのは至難の業です。

しかし、「広報武雄」はあえて難しいことに挑戦します。今後も温かく、そしてお手柔らかに見守っていただけると幸いです。